COVID-19が病院運営に与えた影響 その2

～脳・神経疾患専門病院もCOVID-19患者を受け入れるべきか～

風晴 俊之[1)]　松浦 敬宣[1)]　吉田 淳子[2)]　美原 盤[3)]

1)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 事務部

2)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部

3)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[方法]脳・神経疾患専門のケアミックス型病院である当院では、令和4年2月地域包括ケア病床を含む回復期リハビリ病棟でCOVID-19のクラスターが生じたため、当該病棟への患者受け入れを中止した。そこで令和3年度4月から1月までの平均と2月の各病棟の稼働率、救急車応需困難割合、一般病棟における看護必要度Ⅰの割合、DPC入院期間Ⅲの割合、収入について検討した。

[結果]2月の稼働率は、当該病棟以外100%を超え他の月よりも高かった。救急車の応需困難は約40%で、平均15%に比較し多かった。一般病棟の看護必要度Ⅰは29.7%と今年度初めて基準を下回った。DPCⅢ割合は23%で、平均11%に比較して倍以上となった。収入は1025万円/日で、平均1085万円/日と比較し低かった。

[結語]当該病棟への受け入れ制限により他の病棟は高稼働が維持されたが、収入・地域貢献の観点からのパフォーマンスは大きく下げた。